

エー A ジー G5 ファイブ だよ

グローバルクラスの3年目—児童と創る Global Studies—

香港日本人学校香港校グローバルクラスコーディネーター 大澤由恵

3年目を迎えたグローバルクラス(GC)、第1期生は6年生になりました。10月現在4年生20名、5年生14名、6年生12名が在籍し、英語ネイティブ教員と日本人教員8名が指導にあたっています。本クラスの特徴は、日本の学習指導要領を基にしながら国際バカロレア(IB)の「多様な文化の理解と尊重の精神を通して、よりよい平和な世界を築くことに貢献する探究心、知識、思いやりに富んだ人材の育成」という理念等を取り入れ、これから生きる「グローバル人材」を育成しようというところにあります。現在、「日本人学校における高度グローバル人材の基礎的資質形成のプログラム開発」のモデル校としてAG5のサポートを受け、カリキュラムの開発と改善に努めています。今回は、GCで行っている新科目「グローバルスタディーズ」(GS)とはどんな科目か、児童にはどんな成長が見られているかを中心にお伝えします。



グローバルクラス(GC)とは

人やモノの移動が激しく、情報が錯綜し、技術発展も目覚ましい近年において、かつては想定もしなかった問題・課題や価値観が次々に生まれるようになりまし。日々いろいろな場面で「グローバル」という言葉があふれかえっています。

それでは、このようなグローバル社会をよりよく生きるためにどのような人材が求められるのでしょうか？そして、小学校段階でどのような基礎的な資質を育成すべきなのでしょう？

GCが育てたい児童像は、「グローバル社会で通用する英語コミュニケーション能力」、「分析力やプレゼンテーション能力、調査力、課題解決力などの二十一世紀に必要なグローバルスキル」、「グローバル市民としての主体性」です。そのために、英語イマージョン教育を行ったり、グローバルスタディーズ(GS)を設けたり、SAP活動(Student Action Project)を行ったりしています。

英語教育に関しては、児童の英語力にも大きな成長が見られています。例えば、本コースで導入しているオンライン英語教材「Ready」で計測された英語の読む力(Lexile Level)の

成長率は、二〇一七年四月と一八年四月の同児童グループのテスト結果を見ると、平均で二九〇ポイントの増加が見られます。これは、アメリカの同年代の子どもの成長が平均一〇〇ポイント増であることを考えると、高い成長率を出していると言えるでしょう。

また英語イマージョンで学習している算数と理科については、英語で学習しているからといって学力低下が見られるということもなく、全国テストの平均よりも高い数値が出ています。プレゼンテーション会場でネイティブの先生が来られた時には、日本語で書かれた成果物も英語で伝えようとする姿も多く見られます。

グローバルスタディーズ(GS)とは

グローバル人材の基礎的な資質を育成するための新科目「GS」の創設にあたって、まずはこの科目を通して子どもたちにどのような人になっほしいか、グローバル人材の姿について再考することから始めました。個人的には以下のような人がグローバル人材であり、そうなるための第一歩をGSで踏み出すことができればと考えています。

○生涯にわたって学習し平和構築に貢献する人

- ・考え・信念を公正な行動に移せる。
- ・情報を取捨選択し自分の考えを構成できる。
- ・多様な見方を理解し受け入れられる。
- ・異文化に楽しんで適応できる。

「平和構築」とはいつても、武力紛争地帯での和平合意に取り組みといった、いわゆる大層なものばかりではありません。子どもたちが大人になるころには、人やモノの行き来、これまでに出会ったことのない問題や課題の発生といった現象が昨今の比ではないでしょう。そのような社会では、自分の経験や先入観に固執せず柔軟に思考し、行動できる人が必要です。異なる文化をもつ人々と議論しながらも折衷案を探したり、新しいアイデアを見つけたたりすることができる人。さまざまな情報や見方を理解しながらも、自分が思うことを表現したり行動に移したりできる人。状況が「平和」的になるように物事の公正な解決策を探し、実行していける人が求められるのではないのでしょうか。GSはそのような「人」を育てるために、GCが独自に創設した科目です。

①どんな授業にするのか？

国際バカロレア(1B)と教科横断

このような資質を身につける中心教科として、小学校段階でどのような探究活動ができるか、どのような機会を与えるべきかというふうに考えながらカリキュラム開発を進めていきます。

まずはテーマについて。GSでは以下のように、一学期に一テーマ、三学期を通して八つのテーマ+自由研究を行います。

〈四年生〉

一学期 多様性

二学期 限られた資源としての水

三学期 探検と新たな発見

〈五年生〉

一学期 環境と持続可能社会

二学期 イノベーションテクノロジー

三学期 ジーとその影響

メディアが人々に与える影響

〈六年生〉

一学期 紛争と平和構築

二学期 ガバナンスと人々の暮らし

三学期 自由研究発表

このテーマと内容の選定にあたっては、育てたい児童像、伸ばしたいスキル、子どもの年齢、社会科を中

心とした他教科との関連性、香港の地で得られる資料や校外学習先、1Bのカリキュラム、国際問題、持続可能な開発目標(SDGs)、世界的な開発教育(EDD)のトレンドなどを考慮して決めました。1Bの探究学習や概念学習についても含め、AG5の先生方からのアドバイスや、AG5の支援で行われた日本での研修により、着実に成果が生まれつつあります。

他教科との横断では、例えば四年生の「水」の単元で蒸発や蒸留、ろ過などの理科的な実験をしたり、水使用量について計算を含む数学的な調査や図表処理などを取り入れたり、水の使用量を測りながらの調理をしてみたりしました。トピックがGSと関連しなくても、GSで考えたより説得力のある論の立て方を国語の意見文に反映してみることもありま

す。学年にまたがるGSテーマの横断もあります。例えば四年生で「多様性」について学び、その概念を基に五年生の「環境」において生き物の住み家の多様性について分析します。また、社会科では多様な気候・地形と住居や農業の工夫について考えるなどします。このような横断によって子どもたちが、得た知識や概念を他の授業に応用し、再構築でき

る機会をもてるように意識しています。

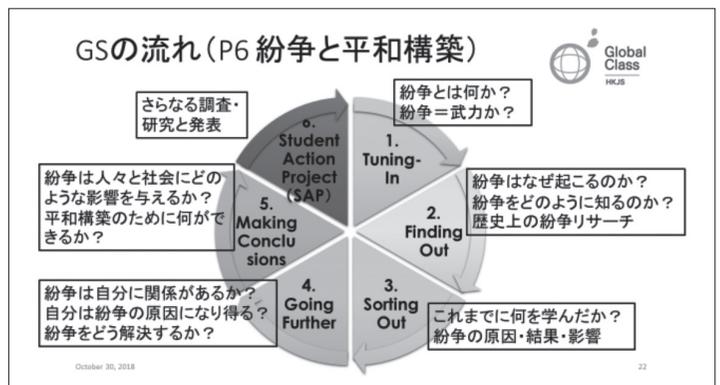
②どんな授業にするのか？
みんな楽しんで探究

一学期に一テーマを突き詰めていくわけですが、基本的に六つのステージを踏んでいきます。最後のステージはSAP活動で、学んでいたことを他の人に向けて発信したり、自分の行動に還元したりしていきます。これまでに、多様性に関する劇を作成して披露したり、節水プロジェクトを家で実践したりしてきました。学びにあたって、ゴールにたどり着くためのルートは一つに絞られるべきではありません。もちろん子どもたちの様子を想像して授業を計画し、目標に到達するためのレールを敷いてみますが、子どもたちがそれは違う方向に行くこともしばしばあります。予想を外れて自分で学びを進めようとしてくれるのはうれしいことです。何より子どもたちが楽しんで探究することが一番です。

子どもたちの探究のために使用する教材は多岐にわたります。GSに教科書はないため、面白いデータやトピックを政府や国際機関、NGOなどのホームページ、本、DVD、新聞から集めてきます。

また、教室では「みんながいるからできることをする」という点を大切にしています。そのため、自分のアイディアを書いたり、ブレインストーミングをしたりするのは宿題になることが多々あります。

お互いの考えを共有したうえで、ディスカッションをしたり、グループ調査をしたりする等の活動を通して協働スキルもどんどん伸ばしてほしいと思っています。



探究サイクルと流れの例

(3) どんな授業にするのか？ ——日本語と英語で

GSはその日の内容によって日本語と英語を使い分けるバイリンガル科目です。英語を使用するときは、「英語」を「学ぶのではなく、英語」で「国際的な課題について探究すること、英語」でも「主体的に学びに向かうことを強調しています。そのため、文法やスペリング、発音の多少の乱れは気にしません。英語はツールであり、何とかして自分の考えを伝える、うまく言えないのであれば同じ意味の違う単語で説明するといった姿勢を大切にしています。

児童の成長

先日、香港日本人学校小学部・小学部合同の教員研修会が開かれ、六年生のGS「ガバナンスと人々の暮らし」を公開しました。小学部の別キャンパスである大埔校、そして中学部の先生方からは子どもたちのデビュートの様子を見て、臆することなく知識を基に意見を発表する姿や、これまで積み上げてきた学びの成果について驚きの声が聞かれました。子どもたちはGSを楽しんでいる様子で、「たくさん考えるのが好き」や「苦手だったプレゼンが面白くな

った」、「GSは知らなかったことはもちろん、考えようとしなかったことについて学べる」という感想が挙がります。主観的にはありませんが、現六年生とは四年生のGC開設時からの付き合いで、彼らの成長には驚かされることばかりです。例えば自分の思考について振り返り、「最初を考えていたことは、一つの面しか見ていなかった。他の見方があった」と、新たな切り口で物事を見られるようになったことを実感している子どもいます。また、いい意味で目立ちたがり屋になった彼らからは「劇をしたい」、「大きい場所でのプレゼンしたい」、「もっと調査について話したい」、「ビデオや番組を作りたい」という発言が多く聞かれます。

今後の課題

現在、AG5の支援を受けて奮闘中ですが、GCにはさまざまな課題を感じています。

まず、GSと他教科との横断性という点で大きな課題が残ります。GSを核にしていますが、十分な横断性があり、子どもたちが知識や概念をいろいろな場面で応用しさらに構築していけるか、この環境を整備できているのかというところは常に振り返っていかねばなりません。そ

して、GCは計八名の教員が関わり、教科担任制の部分もあるため、教員間の連携が重要な鍵になります。

四年生から六年生までの三学年の中で交流や、現地校・インターナショナルスクールとの交流活動にも力を入れていきたいところです。これまで六年生が四年生に向けてGCの目指す学習者像について説明したり、五年生が四年生に向けて何かを教えたり、プレゼンテーションに他学年を招待したりという関わりをもってきました。子どもたちの様子を見てみると、このような交流を通して責任感や自信、意欲を高めたり、近い将来への目標をもったりというポジティブな姿が見られました。このようなグローバルクラス内での交



紛争と環境を結び付けた調査について5年生に発表する6年生の児童

流機会を増やしていくとともに、現地校やインターナショナルスクールとの交流をもてるように、渉外面にも努めていきたいと思えます。

教員は指導力向上に、常に努めていかなければなりません。学習指導要領はもちろんのこと、IBの教育についての理解を深め、探究学習を進めるための指導方法について研鑽を積むことが求められます。グローバルクラスの教員内で自主的に行う授業研究も始めました。研究会の持ち方や進め方についてすらも未だ模索しながらではありますが、より子どもが楽しく探究できる授業のために授業研究を進めていきます。

持続的な運営という点も注視していかなければなりません。数年ごとに教員が変わっていく在外教育施設という環境下で、どの教員が担当してもGCとしての特色を打ち出せるようにするために、運営やカリキュラム構築・見直しについて多くの人が関わっていくことが大切になると思えます。

これらの課題に対して、試行錯誤を繰り返しながら改善に努めていきたいと思えます。また、児童と保護者の声を大切に、GSそしてGCのさらなる発展に向けて一緒に歩んでいきたいです。